

6 発見のためのリンク集

私たちは、これまで「教養」について考えてきた。結論にはもちろんまだ至っていない。しかし、「教養」が「知る」という行為と不可分な関係にあるのは確かだろう。そして、おそらくこれからの時代において、Web が本や新聞・雑誌に匹敵する重要性を持つようになるのではないだろうか。

私たちがそれぞれの興味のもとに発見した、玉石混淆のうちの「玉」と信じるサイトの一部を掲載してみたいと思う。そこでは本や講義では得られない新鮮な体験を味わわせてくれる独特の世界が展開されている。このリンク集が皆様の興味を惹き、新たな領域について知る端緒となれば幸いである。

ルーブル美術館

<http://www.louvre.fr/>

基本的な美術館の案内の他、「今日の一枚」と称して、毎日一枚の絵画に関する作者、背景、時代に関する情報を知ることができる。また、“3D”で館内を見学するツアーも体験可能である。一見の価値あり！

Project Gutenberg

<http://www.gutenberg.org/>

25000冊以上の著作権切れした英語書籍が読めるサイト。英米文学の名作は大抵手に入る。

国立国会図書館 近代デジタルライブラリー

<http://kindai.ndl.go.jp/>

明治・大正期の貴重な書籍の画像ファイルを見ることができる。最近、提供数が10万件を超えたようだ。

千夜千冊マップ

<http://senya.pictopic.info/>

ご存知“知の巨人”松岡正剛の「千夜千冊」。このページでは、キーワード検索で各々の紹介ページにとべるほか、関連する書物も提示してくれる。まさに知の羅針盤。「跡ラングム」なる機能も粋。

アナトモグラフィ

<http://lifesciencedb.jp/ag/>

組織によって細かさにはずいぶん差があるものの、かなり詳細な人体解剖図が3Dで見られる／作れるサイト。色などの簡単な編集も可能なおうえ、編集した画像はCC（クリエイティブコモンズライセンス）で利用・公開が可能。

4D2U

<http://4d2u.nao.ac.jp/>

国立天文台の4D2U (4-Dimensional Digital Universe) プロジェクトのFlash版ページ。特にお勧めなのは、画面左端に現れる4D2U NAVIGATOR。国立天文台三鷹キャンパスの一室にあるパソコンから、宇宙全体まで、実に26桁に及ぶ凄まじいスケールの移動が体感できる。表示は線画だけと非常に簡素だが、それだけにサクサクと縦横無尽に動き回れる。

Celes Trak

<http://celestrak.com/>

北米航空宇宙防衛司令部 (NAADC. 通称 NORAD) と、米 AGI 社が開設しているサイトで、NORAD が監視している軌道上の物体の軌道要素を、(もちろん公開可能なものに限って) 一般に公開しているサイト。日本の情報収集衛星の軌道が決定的にバレたのは、日本政府側から NORAD に連絡が行っておらず、軌道がこのサイトに公開されてしまったためである。後日慌てて日本政府側が頼んで非公開になったが、後の祭り。

BOINC

<http://boinc.berkeley.edu/>

カリフォルニア大学バークレイ校が開発した、分散コンピューティングのためのプラットフォームのページ。スクリーンセーバー実行中に使われていない PC の計算能力を、様々な問題 (素数探索・地球外知的生命体探査・粒子加速器のシミュレーション・分子の性質推定等々) に供出する為のソフトウェア。あなたの PC の有り余る計算能力を、人類のために役立ててみませんか？

New York Times

<http://www.nytimes.com/>

教員向けアンケートに回答してくださった矢口祐人先生ご推薦のサイト。言わずもがな、New York Times の記事を読むことが出来る。

WIRED VISION

<http://wiredvision.jp/>

アメリカのビジネス、テクノロジー、カルチャーに関する記事と、数人の執筆者によるブログからなるサイト特に先端技術系の記事の充実さは他のニュース系ブログの追随を許さない。記事はアメリカの WIRED というサイトの翻訳なので、最新の情報を得たいならそちらを見るのもいい。ブログも執筆者の個性がよく出ていて面白い。

JanJan

<http://www.janjan.jp/>

「市民の市民による市民のためのメディア」を掲げ、一定の検閲の下に市民の投稿を記事としてアップしウェブ上に新聞をくみ上げている。コンテンツは多様で毎日更新されている。微に入り、細を穿ったような三面記事も散見され、それはそれで興味を引く。

ほぼ日刊イトイ新聞

<http://www.1101.com/>

「ほぼ」を冠するも、実際は 98 年の創刊以来更新が止んだことはない。寄稿者は錚々たる面々で目を引く。同じ新聞系のサイトでも JanJan とは異なり、糸井重里氏の雑感に始まり、著名人のインタビューや対談、コラムが中心コンテンツを占める。

Google scholar

<http://scholar.google.co.jp/>

学術情報を検索するのに非常に便利。通常の検索エンジンでは雑多なサイトに埋もれて発見できないような、学術論文などを発見できる。CiNii¹ の内容もこの検索エンジンに引っ掛かる。

1 国立情報学研究所が提供する約 300 万件の学術論文が読めるサイト。本文の閲覧に対して課金されることが多い。

平和のためのリンク集

http://homepage2.nifty.com/peacecom/link_peace.htm

平和を考える上で重要なキーワードから、各種サイトへリンクが貼られている。原爆、核兵器から始まり、ジャーナリストの個人サイトや NPO、高校生のゼミナールまで網羅されている。私たち人間にとって永久のテーマを考えるきっかけとなれば。

Oxford University

<http://www.ox.ac.uk/>

通常の大学情報のみならず、各学部ごとに特徴あるページを持つ。例を挙げれば哲学のページでは教授によるブログを見ることができ、Podcast² も配信している。

² テレビ番組やラジオ番組などを収録した無料のオーディオやビデオのデータ配信サービス。iTunes というソフトウェアを通じて利用できる。

この他にも、見聞伝「教養と教育」企画の Web ページ (<http://kenbunden.net/culture>) で、多くのサイトをご紹介する予定である。ぜひ訪れてみてほしい。